

四半期報告書

(第117期第3四半期)

自 平成24年10月1日

至 平成24年12月31日

富士フイルムホールディングス株式会社

第117期第3四半期（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）

四半期報告書

- 本書は金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく四半期報告書を同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成25年2月14日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
第117期第3四半期 四半期報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	10
1 【株式等の状況】	10
2 【役員の状況】	11
第4 【経理の状況】	12
1 【四半期連結財務諸表】	13
2 【その他】	44
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	45
四半期レビュー報告書	

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第117期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 富士フイルムホールディングス株式会社

【英訳名】 FUJIFILM Holdings Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中嶋成博

【本店の所在の場所】 東京都港区西麻布二丁目26番30号
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)

【電話番号】 03(6271)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画部 経理グループ長 稲永滋信

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂九丁目7番3号

【電話番号】 03(6271)1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画部 経理グループ長 稲永滋信

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第116期 第3四半期 連結累計期間	第117期 第3四半期 連結累計期間	第116期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	1,618,513 (535,081)	1,611,172 (549,562)	2,195,293
税金等調整前四半期 (当期)純利益 (百万円)	57,685	62,829	89,187
当社株主帰属四半期 (当期)純利益 (百万円) (第3四半期連結会計期間)	23,696 (8,798)	28,848 (18,374)	43,758
当社株主帰属四半期包括利益 (△損失)又は包括利益 (百万円)	△18,989	75,528	15,216
株主資本 (百万円)	1,696,946	1,788,191	1,721,769
純資産額 (百万円)	1,828,453	1,934,719	1,856,484
総資産額 (百万円)	2,589,808	2,982,684	2,739,665
1株当たり当社株主帰属 四半期(当期)純利益 (円) (第3四半期連結会計期間)	49.19 (18.26)	59.89 (38.14)	90.84
潜在株式調整後 1株当たり当社株主帰属 四半期(当期)純利益 (円)	47.50	57.63	87.23
株主資本比率 (%)	65.5	60.0	62.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	69,129	118,960	135,133
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△87,091	△125,082	△185,875
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△34,068	190,726	△24,404
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	248,469	427,859	235,104

- (注) 1 当社の連結財務諸表は、米国で一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づき作成しております。
- 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 3 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当社は、米国会計基準によって連結財務諸表を作成しており、「関係会社」については米国会計基準の定義に基づいて開示しております。「第2 事業の状況」においても同様であります。

当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)は、「わたしたちは、先進・独自の技術をもって、最高品質の商品やサービスを提供する事により、社会の文化・科学・技術・産業の発展、健康増進、環境保持に貢献し、人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。」との企業理念の下、イメージング ソリューション、インフォメーション ソリューション、ドキュメント ソリューションを提供し、社会とお客様に信頼されるグローバル企業を目指しております。

当第3四半期連結累計期間において、各事業部門に係る主な事業内容の変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の世界経済を概観すると、欧州では債務問題の長期化により景気低迷が続いています。米国景気は、緩やかな回復基調を維持していますが、回復基調は弱いものとなっています。アジアをはじめとする新興国地域でも、輸出の低迷を受けて経済成長のペースは減速しており、特に中国経済減速の長期化が懸念されます。日本においては、東日本大震災からの復興需要は続くものの、海外経済の減速による輸出環境の悪化等を背景に、景気は弱含みで推移しています。

当社グループの事業環境は、欧州の景気低迷による需要減少や、為替の対ユーロ円高影響等を受けて、厳しいものとなりました。

このような状況の中でも当社グループは、平成21年度から2年をかけた聖域なき構造改革によって構築した強靱な企業体質を基盤に、平成23年度には、中期経営計画「VISION80」（平成24年度～平成25年度）を策定し、世界市場を舞台に成長戦略を強力に推進しています。成長性が高く当社の技術力を存分に発揮できる重点事業分野と、成長が続く新興国を中心とするグローバル展開に経営資源を集中投入し、売上、市場シェアの拡大に取り組んでおります。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における連結売上高は、新商品の投入や新興国市場の成長に対応し拡販施策を強化したものの、欧州の景気低迷による需要減少や、為替の円高影響等により1,611,172百万円（前年同期比0.5%減）となりました。国内売上高は725,542百万円（前年同期比0.6%減）、海外売上高は885,630百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

営業利益は、売上総利益の減少や、為替の円高影響等を受け、65,378百万円（前年同期比23.6%減）となりました。

税金等調整前四半期純利益は、売上高の減少に伴う売上総利益の減少があったものの、投資有価証券評価損の減少や、前年同期と比べ対米ドルの為替が円安方向へ振れたことに伴い、為替差損益（純額）が損失から利益へ転じたこと等により、62,829百万円（前年同期比8.9%増）となりました。当社株主帰属四半期純利益は、28,848百万円（前年同期比21.7%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① イメージング ソリューション部門

フォトイメージング事業では、カラーペーパーや、平成24年11月に発売した「instax mini 8『チェキ』」をはじめとしたインスタントカメラ等の販売が好調に推移しましたが、為替の円高等の影響により、売上が減少しました。

電子映像事業では、平成24年11月に発売したレンズ交換式プレミアムカメラ「FUJIFILM X-E1」等の販売が好調に推移したものの、コンパクトカメラの総需の減少等の影響を受けて売上が減少しました。今後は独自技術を活かした高級機種「Xシリーズ」や交換レンズのラインアップを拡充し、伸張するレンズ交換式カメラ市場での販売を強化していきます。

本部門の連結売上高は、カラーペーパーの販売が好調であったものの、為替の円高影響等によ

り、222,505百万円（前年同期比10.6%減）となりました。営業損失は、フォトイメージング事業における値上げの効果等により減少し、3,003百万円（前年同期営業損失3,825百万円）となりました。

② インフォメーション ソリューション部門

メディカルシステム事業では、ネットワークシステムの販売好調に加え、モダリティや内視鏡の機器販売が堅調に推移し、さらに買収した携帯型超音波診断装置メーカーである米国 SonoSite, Inc. の連結子会社化により、売上が大幅に増加しました。モダリティ分野では、低価格・小型デジタルX線画像診断装置「FCR PRIMA」シリーズの販売が好調に推移しました。内視鏡分野では、病院市場への高画質経鼻内視鏡の販売が好調に推移し、売上が増加しました。また、平成24年9月には早期がん等の病変部の視認性向上を実現した、レーザー光源搭載の画期的な新世代内視鏡システム「LASEREO」を発売しました。ネットワークシステム分野では、医用画像情報システム（PACS）を中心に診療情報分野への事業拡大を進めており、売上が増加しました。当社PACS「SYNAPSE」は、国内約1,800の医療施設に導入されており、トップシェアを維持しています。

医薬品事業では、富山化学工業㈱のβ-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤「ゾシン」や、ニューキノロン系経口抗菌製剤「オゼックス細粒」の販売が好調だったこと、また、富士フィルムファーマ㈱のバイエル薬品先発薬の販売等による売上増加等により、事業全体として売上が大幅に増加しました。

ライフサイエンス事業では、売上が前年同期並みとなりました。平成24年9月にリニューアルした機能性化粧品「アスタリフト」シリーズは、販促活動を積極的に展開したこと等により、国内販売が好調に推移しました。今後はこの新「アスタリフト」、及び、平成24年7月に発売した20～30代女性向け新スキンケアシリーズ「ルナメア」等の新製品の拡販に努めていきます。

グラフィックシステム事業では、CTPプレートやデジタルプリンティング機器の販売は堅調に拡大しましたが、為替の円高等の影響により、売上が減少しました。今後もCTPプレートのシェア拡大とデジタルプリンティング機器の拡販に注力するとともに、新興国での拡販を強化していきます。

フラットパネルディスプレイ材料事業では、「VA用フィルム」や「IPS用フィルム」の販売が好調に推移したものの、「WVフィルム」がIT機器の需要低迷、及び、サプライチェーン内での在庫調整の影響を受けたことにより販売が減少し、事業全体としても売上が減少しました。需要が急拡大するタブレットPCやスマートフォン向けを中心にフィルムの薄膜化による製品ラインアップ拡充を図るとともに、大型液晶テレビ向けの超広幅フィルムの需要拡大に対応するため、平成25年1月に1ラインを稼働させており、平成25年3月末までにさらに1ラインを稼働させる予定です。

産業機材事業では、工業用X線フィルムの販売が堅調に推移したものの、為替の円高等の影響を受け、売上が減少しました。今後は、太陽電池用高耐候PETフィルムや、平成24年11月より出荷を開始した透明導電フィルム「エクスクリア」等、成長が見込まれる環境・エネルギー分野とタッチパネル分野での売上拡大を目指していきます。

電子材料事業では、ArF液浸レジスト、CMPスラリー、イメージセンサー用カラーモザイク等先端製品の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。

光学デバイス事業では、携帯電話用カメラレンズの販売が減少したこと等により売上が減少しました。今後はスマートフォン用薄型カメラモジュールを中心に新領域への事業拡大を推進していきます。

記録メディア事業では、為替の円高影響や、業務用ビデオの販売が総需減等の影響を受けて減少したことにより、売上が減少しました。

本部門の連結売上高は、為替の円高影響や、フラットパネルディスプレイ材料事業の売上減少等があったものの、メディカルシステム事業や医薬品事業等成長事業の売上が拡大したことにより、653,516百万円（前年同期比1.1%増）となりました。営業利益は、商品ミックスの変化や、為替の円高等の影響により、41,535百万円（前年同期比16.6%減）となりました。

③ ドキュメント ソリューション部門

オフィスプロダクト事業は、国内においては、フルカラーデジタル複合機「ApeosPort-IV / DocuCentre-IVシリーズ」の販売が引き続き好調に推移するとともに、大型商談の成約による大量設置もあり、カラー機、モノクロ機ともに販売台数が増加しました。一方、消耗品および保守サービス売上は、市場における稼働台数の増加、及び、1台あたりコピー枚数の増加はあったものの、コピー1枚あたりの単価下落の影響により微減となりました。アジア・オセアニア地域においては、平成24年6月に発売したモノクロデジタル複合機「DocuCentre S2010 / S1810」の販売が好調に推移し、モノクロ機の販売台数が大幅に増加するとともに、カラー機の販売台数も増加しました。米国ゼロックス社向け輸出においては、モノクロ機の出荷台数が大幅に伸び、全体の販売台数が増加しました。

オフィスプリンター事業は、アジア・オセアニア地域においては、モノクロ機、カラー機ともに販売台数が増加しました。米国ゼロックス社向け輸出においては、低速機の出荷が伸長し、出荷台数が大幅に増加しました。一方、国内においては、モノクロ機、カラー機ともに販売台数が減少しました。

プロダクションサービス事業は、国内においては、平成24年4月に発売した基幹業務系ネットワークプリンター「D125 Printer / D110 Printer」の販売が好調に推移したものの、前年同期に基幹業務向け中・小型プリンターの大型設置があったこと等により、全体では販売台数が減少しました。また、米国ゼロックス社向け輸出においても、全体で出荷台数が減少しました。一方、アジア・オセアニア地域においては、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム「Color 1000 Press / Color 800 Press」の販売が好調に推移し、販売台数全体でも増加しました。

グローバルサービス事業は、国内、アジア・オセアニア地域ともに二桁成長の増収となりました。これには、平成24年10月に買収した豪州最大のビジネスサービスプロバイダーSalamat Limitedのビジネスプロセスアウトソーシング事業を、Fuji Xerox Document Management Solutions Pty. Limitedとして連結子会社化したことによる売上増加も寄与しています。今後は同社が培ってきたサービスプロバイダーとしてのノウハウと、富士ゼロックスが持つマーケティング力を融合することで、アジア・オセアニア地域におけるソリューションサービスビジネスを強力に展開していきます。

本部門の連結売上高は、欧州の景気低迷による米国ゼロックス社向け輸出売上の減少や、為替の円高影響等があったものの、豪州Salamat Limitedのビジネスプロセスアウトソーシング事業を含めたアジア・オセアニア地域での売上増や、国内販売の堅調な推移等により、735,151百万円（前年同期比1.6%増）となりました。営業利益は、商品ミックスの変化等の影響を受けた販売単価の下落等による売上総利益の減少に対して、研究開発費や、販売費及び一般管理費の効率化によって挽回を図ったものの、52,396百万円（前年同期比14.6%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」と記述します。）は、前連結会計年度末より192,755百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末におきましては427,859百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は118,960百万円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して49,831百万円（72.1%）増加しておりますが、これは受取債権の回収額が増加したこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は125,082百万円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して37,991百万円（43.6%）支出が増加しておりますが、これは事業買収に伴う支出が増加したこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に得られた資金は長期債務による調達を行ったこと等により190,726百万円となりました。前第3四半期連結累計期間は財務活動に使用した資金が34,068百万円となっております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当面の対処すべき課題の内容

当社グループを取り巻く事業環境は、原材料価格の高騰や為替の円高、欧州の景気悪化等の影響を大きく受け、厳しく不透明な状況が続いています。このような状況下で、当社グループは、再び成長軌道に乗せるという強い意志を持って、前連結会計年度において策定した中期経営計画「VISION80」を強力に推し進めています。

「VISION80」では、「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」の3事業分野を成長の柱と位置づけ、これらの分野に経営資源を戦略的に集中投下し、売上を大幅に拡大させていきます。「ヘルスケア」事業分野は、当社グループの長期的な成長の柱であり、「予防」「診断」「治療」の領域をカバーするトータル・ヘルスケア・カンパニーを目指します。「高機能材料」事業分野は、フラットパネルディスプレイ材料の収益性を引き続き確保していくことに加え、機能性材料の開発力を活かし、今後成長が期待される分野に新製品を投入することで、成長を持続させます。「ドキュメント」事業分野では、成長領域であるグローバルサービス事業の拡大やソリューションビジネスの展開を加速させるとともに、中国やその他の新興国へのリソースシフトにより、さらなる成長を実現していきます。また、上記の3事業分野以外にも、当社グループの独自技術を活かした新商品の市場投入を推進するとともに、新興国を中心として現場に密着したマーケティング活動による拡販等、グローバル展開を加速させていきます。これらの「VISION80」の経営施策を迅速果断に遂行することで、中長期的な成長を確実なものとし、企業価値のさらなる向上を目指します。

今後も、コーポレート・ガバナンスの充実や、コンプライアンス・リスクマネジメントの強化を図るとともに、社会貢献活動や環境課題への対応になお一層真摯に取り組むことで企業の社会的責任を果たし、社会全体の発展に尽力していきます。

当第3四半期連結累計期間においては、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに発生した課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

① 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容の概要

株主の皆様から経営を負託された当社取締役会は、その負託にお応えすべく、平素から当社グループの財務及び事業の方針を決定するにあたり、中長期的な視点に基づく持続的な成長を通じて、企業価値・株主共同の利益の確保及び向上を図ることがその責務であると考えております。この考え方にに基づき、当社グループの企業理念のもと、「先進・独自の多様な技術力」と「グローバルネットワーク」、これらを下支えする「人材」と「企業風土」という当社グループの企業価値の源泉を伸張させること等により、企業価値の向上に努めてまいりました。

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社グループの企業価値の源泉を理解し、中長期的な視点から当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保し、向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。当社は、当社の支配権の獲得を目的とした買収提案がなされた場合、その判断は最終的には株主全体の意思に基づき行われべきものと考えておりますが、株式の大量買付の中には、大量買付の対象となる会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものがあります。

そこで、当社は、買収提案がなされた場合はその検討及び交渉に必要な情報と相当な時間を確保するとともに、濫用的な買収を抑止し、当社の企業価値・株主共同の利益の確保及び向上を図るための合理的な枠組みが必要であると考えております。

② 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は、上記①の基本方針の実現のために、前記「当面の対処すべき課題の内容」に記載の諸施策を遂行することにより、当社の企業価値及び株主共同の利益の向上に努めてまいります。

③ 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、上記①の基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）を策定しております（以下、「本プラン」と記述します。）。

本プランの概要は、以下のとおりであります。

本プランは、当社株券等の20%以上を買収しようとする者が現れた際に、買収者に事前の情報提供を求める等、上記の目的を実現するために必要な手続を定めております。

買収者は、本プランに係る手続に従い、当社取締役会又は当社株主意思確認総会において本プランの発動（本プランに従った新株予約権の無償割当て）を行わない旨が決定された場合に、当該決定時以降に限り当社株券等の大量買付を行うことができるものとされています。

買収者が本プランに定められた手続に従わない場合や当社株券等の大量買付が当社の企業価値・株主共同の利益を毀損するおそれがある場合等で、本プラン所定の発動要件を満たす場合には、当社は、その時点の当社を除く全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法により新株予約権を割り当てます。かかる新株予約権には、買収者等による権利行使は原則として認められないとの行使条件及び当社が買収者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得できる旨の取得条項が付されます。

当社は、本プランに従った新株予約権の無償割当ての実施、不実施又は取得等の判断については、取締役の恣意的判断を排するため、当社経営陣から独立した社外取締役、社外監査役又は有識者のみから構成される第三者委員会を設置し、その客観的な判断を経るものとしております。また、当社取締役会は、これに加えて、本プラン所定の場合には、株主意思確認総会を開催し、新株予約権の無償割当ての実施に関する株主の皆様の意思を確認することがあります。

こうした手続の過程については、適宜株主の皆様に対して情報開示がなされ、その透明性を確保することとしております。

本プランの有効期間は、平成22年6月29日開催の第114回定時株主総会終結後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとしています。但し、本プランは、有効期間の満了前であっても、当社株主総会又は当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランは当該決議に従い廃止されるものとします。

なお、新株予約権の無償割当て時に株主及び投資家の皆様にご与える影響は次のとおりです。新株予約権の無償割当てが行われた場合に、株主の皆様が新株予約権の行使及び行使価額相当の払込を行わなければ、他の株主の皆様による新株予約権の行使により、その保有する当社株式が希釈化することになります。但し、当社が本プランに定める非適格者以外の株主の皆様から新株予約権を取得しそれと引換えに当社株式を交付した場合には、非適格者以外の株主の皆様の保有する当社株式の希釈化は原則として生じません。

④ 具体的な取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

i) 上記②の取組みについて

上記②の取組みは、中長期的な視点から当社の中長期的な成長を確実なものとし、企業価値のさらなる向上を目指すための具体的な経営施策として策定されており、上記①の基本方針に沿うものであり、また、株主共同の利益を損なうものではなく、取締役の地位の維持を目的とするものでもないと考えます。

ii) 上記③の取組みについて

本プランは、当社株券等の買付等がなされた際に、当該買付等に応じるか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提案するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とするものであり、当社の企業価値・株主共同の利益の確保及び向上を目的とし、上記①の基本方針に沿うものと考えます。

本プランは、合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されています。発動に際しては、独立性のある委員で構成される第三者委員会の勧告を必ず経ることとされ、さらに、第三者委員会は、第三者専門家等の助言を受けることができ、第三者委員会による判断の公正さ・客観性がより強く担保されています。また、本プランの更新や新株予約権の無償割当ての実施においては、株主の皆様が意思が反映されるための仕組みが講じられ、本プランの各手続きの進捗は適時に情報開示されることとなっています。このように、本プランは、客観的かつ具体的なものであり、透明性も確保された設定となっています。

以上から、本プランは当社の企業価値・株主共同の利益を損なうものではなく、取締役の地位の維持を目的とするものでもないことは明らかであると考えます。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、123,145百万円(前年同期比2.3%減)であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	514,625,728	514,625,728	東京・大阪・名古屋の各 証券取引所(市場第一部)	単元株式数100株
計	514,625,728	514,625,728	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	—	514,625,728	—	40,363	—	63,636

(6) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 32,916,300	—	—
完全議決権株式(その他)(注)1	普通株式 481,280,900	4,812,806	—
単元未満株式(注)2	普通株式 428,528	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	514,625,728	—	—
総株主の議決権	—	4,812,806	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の中には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。また、議決権の数(個)の中には、同社名義の完全議決権株式に係る議決権数(3個)は含まれておりません。

2 単元未満株式には以下が含まれております。

自己株式—当社所有株92株

② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 富士フイルムホールディングス株式会社	東京都港区 西麻布二丁目26—30	32,916,300	—	32,916,300	6.39
計	—	32,916,300	—	32,916,300	6.39

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が平成24年12月31日現在、1,500株（議決権の個数15個）あります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準による用語、様式及び作成方法に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

		前連結会計年度に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日)		当第3四半期 連結会計期間 (平成24年12月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
資産の部					
I 流動資産					
1 現金及び現金同等物	注11		235,104		427,859
2 有価証券	注3,11		12,364		8,488
3 受取債権					
(1)営業債権及びリース債権	注12	541,988		524,371	
(2)関連会社等に対する債権		32,102		32,481	
(3)貸倒引当金	注12	△17,607	556,483	△19,520	537,332
4 棚卸資産	注4		377,952		413,337
5 前払費用及びその他の流動資産	注10,11		140,088		159,723
流動資産合計			1,321,991		1,546,739
II 投資及び長期債権					
1 関連会社等に対する投資及び貸付金	注5		35,614		39,186
2 投資有価証券	注3,11		118,954		109,730
3 長期リース債権及びその他の長期債権	注10,12		128,493		137,764
4 貸倒引当金	注12		△3,221		△3,524
投資及び長期債権合計			279,840		283,156
III 有形固定資産					
1 土地			94,730		95,044
2 建物及び構築物			666,724		677,071
3 機械装置及びその他の有形固定資産			1,557,424		1,624,718
4 建設仮勘定			41,030		20,031
			2,359,908		2,416,864
5 減価償却累計額			△1,805,992		△1,874,586
有形固定資産合計			553,916		542,278
IV その他の資産					
1 営業権	注13		393,541		399,665
2 その他の無形固定資産	注13		43,900		88,725
3 その他			146,477		122,121
その他の資産合計			583,918		610,511
資産合計			2,739,665		2,982,684

		前連結会計年度に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
負債の部			
I 流動負債			
1 社債及び短期借入金	注10	178,536	171,970
2 支払債務			
(1)営業債務		228,383	209,792
(2)設備関係債務		26,729	17,289
(3)関連会社等に対する債務		3,292	3,081
3 未払法人税等		12,864	10,230
4 未払費用		178,618	154,783
5 その他の流動負債	注10, 11	63,945	68,597
流動負債合計		692,367	635,742
II 固定負債			
1 社債及び長期借入金	注10	20,334	246,357
2 退職給付引当金		85,116	73,609
3 預り保証金及びその他の固定負債	注10, 11	85,364	92,257
固定負債合計		190,814	412,223
負債合計		883,181	1,047,965
契約債務及び偶発債務	注8		
純資産の部			
I 株主資本			
1 資本金			
普通株式			
発行可能株式総数		800,000,000株	
発行済株式総数		514,625,728株	40,363
2 資本剰余金		74,780	75,287
3 利益剰余金		1,944,557	1,963,771
4 その他の包括利益(△損失)累積額	注10	△235,400	△188,720
5 自己株式(取得原価)		△102,531	△102,510
前連結会計年度末			32,920,287株
当第3四半期連結会計期間末			32,914,880株
株主資本合計	注7	1,721,769	1,788,191
II 非支配持分	注7	134,715	146,528
純資産合計		1,856,484	1,934,719
負債・純資産合計		2,739,665	2,982,684

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
区分	注記 番号	金額(百万円)		金額(百万円)	
I 売上高					
1 売上高		1,366,009		1,354,972	
2 レンタル収入		252,504	1,618,513	256,200	1,611,172
II 売上原価					
1 売上原価		866,797		876,928	
2 レンタル原価		113,150	979,947	111,049	987,977
売上総利益			638,566		623,195
III 営業費用					
1 販売費及び一般管理費		426,923		434,672	
2 研究開発費		126,077	553,000	123,145	557,817
営業利益			85,566		65,378
IV 営業外収益及び費用(△)					
1 受取利息及び配当金		4,305		3,733	
2 支払利息		△2,821		△2,920	
3 為替差損益・純額	注10	△10,736		1,406	
4 投資有価証券評価損	注3	△17,789		△5,453	
5 その他損益・純額	注10	△840	△27,881	685	△2,549
税金等調整前四半期純利益			57,685		62,829
V 法人税等			24,420		19,305
VI 持分法による投資損益			476		△2,951
四半期純利益			33,741		40,573
VII 控除：非支配持分帰属損益			△10,045		△11,725
当社株主帰属四半期純利益			23,696		28,848

1株当たり当社株主帰属 四半期純利益	注9	49.19円	59.89円
潜在株式調整後1株当たり 当社株主帰属四半期純利益	注9	47.50円	57.63円
1株当たり現金配当		17.50円	20.00円

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
I 四半期純利益		33,741	40,573
II その他の包括利益(△損失)－税効果調整後			
1 有価証券未実現損益変動額		△1,646	1,212
2 為替換算調整額		△45,852	46,379
3 年金負債調整額		2,102	3,279
4 デリバティブ未実現損益変動額		△65	339
その他の包括利益(△損失)合計	注7	△45,461	51,209
四半期包括利益(△損失)		△11,720	91,782
III 控除：非支配持分帰属四半期包括損益	注7	△7,269	△16,254
当社株主帰属四半期包括利益(△損失)		△18,989	75,528

【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結会計期間】

区分	注記 番号	前第3四半期連結会計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
I 売上高					
1 売上高		451,252		464,680	
2 レンタル収入		83,829	535,081	84,882	549,562
II 売上原価					
1 売上原価		286,982		301,207	
2 レンタル原価		37,399	324,381	38,787	339,994
売上総利益			210,700		209,568
III 営業費用					
1 販売費及び一般管理費		141,386		145,174	
2 研究開発費		42,791	184,177	41,301	186,475
営業利益			26,523		23,093
IV 営業外収益及び費用(△)					
1 受取利息及び配当金		1,604		1,411	
2 支払利息		△1,215		△1,067	
3 為替差損益・純額	注10	1,140		10,941	
4 投資有価証券評価損	注3	△2,758		△4,266	
5 その他損益・純額	注10	△352	△1,581	△265	6,754
税金等調整前四半期純利益			24,942		29,847
V 法人税等			12,673		7,401
VI 持分法による投資損益			△16		665
四半期純利益			12,253		23,111
VII 控除：非支配持分帰属損益			△3,455		△4,737
当社株主帰属四半期純利益			8,798		18,374

1株当たり当社株主帰属 四半期純利益	注9	18.26円	38.14円
潜在株式調整後1株当たり 当社株主帰属四半期純利益	注9	17.60円	36.40円
1株当たり現金配当		－円	－円

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
I 四半期純利益		12,253	23,111
II その他の包括利益(△損失)－税効果調整後			
1 有価証券未実現損益変動額		△899	9,262
2 為替換算調整額		4,329	75,696
3 年金負債調整額		1,121	1,107
4 デリバティブ未実現損益変動額		25	215
その他の包括利益(△損失)合計		4,576	86,280
四半期包括利益		16,829	109,391
III 控除：非支配持分帰属四半期包括損益		△4,514	△11,423
当社株主帰属四半期包括利益		12,315	97,968

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 四半期純利益		33,741	40,573
2 営業活動により増加した 純キャッシュへの調整			
(1) 減価償却費		107,907	102,617
(2) 投資有価証券評価損		17,789	5,453
(3) 持分法による投資損益 (受取配当金控除後)		545	3,731
(4) 資産及び負債の増減			
受取債権の増加(△)・減少		△15,985	38,525
棚卸資産の増加		△38,370	△17,849
営業債務の減少		△18,272	△30,830
未払法人税等及びその他負債の減少		△25,227	△30,692
(5) その他		7,001	7,432
営業活動によるキャッシュ・フロー		69,129	118,960
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 有形固定資産の購入		△74,236	△66,914
2 ソフトウェアの購入		△14,251	△13,236
3 有価証券・投資有価証券等 の売却・満期償還		33,705	10,777
4 有価証券・投資有価証券等の購入		△11,484	△1,248
5 関係会社投融資及びその他 貸付金の増加(△)・減少		119	△6,496
6 事業買収に伴う支出 (買収資産に含まれる現金及び現金同等物控除後)		△1,850	△30,664
7 その他		△19,094	△17,301
投資活動によるキャッシュ・フロー		△87,091	△125,082
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 長期債務による調達額		6,860	230,649
2 長期債務の返済額		△19,267	△16,214
3 短期債務の減少(純額)		△3,092	△1,180
4 親会社による配当金支払額		△15,655	△18,064
5 非支配持分への配当金支払額		△4,620	△4,436
6 自己株式の取得(純額)		△4	△3
7 その他		1,710	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー		△34,068	190,726
IV 為替変動による現金 及び現金同等物への影響		△12,571	8,151
V 現金及び現金同等物純増加・純減少(△)		△64,601	192,755
VI 現金及び現金同等物期首残高		313,070	235,104
VII 現金及び現金同等物四半期末残高		248,469	427,859

四半期連結財務諸表に対する注記

1 経営活動の概況

当社は、イメージング、インフォメーション及びドキュメントの分野において、事業展開を行っております。イメージングソリューションでは、カラーフィルム、デジタルカメラ、フォトフィニッシング機器、写真プリント用カラーペーパー・薬品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。インフォメーションソリューションでは、メディカルシステム機材、ライフサイエンス製品、医薬品、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、光学デバイス、電子材料等の開発、製造、販売、サービスを行っております。ドキュメントソリューションでは、オフィス用複写機・複合機、プリンター、プロダクションサービス関連商品、オフィスサービス、用紙、消耗品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。当社は世界各国で営業活動を行っており、海外売上高は55.0%を占め、北米、欧州及びアジアが主要市場であります。主な生産拠点は日本、米国、中国、オランダ、ブラジル及びシンガポールに所在しております。

2 重要な連結会計方針の概要

当四半期連結財務諸表は、米国で一般に公正妥当と認められている企業会計の基準(米国財務会計基準審議会による会計基準編纂書 (Accounting Standards CodificationTM;以下、「基準書」と記述します。))に基づいて作成されております。

当社は1970年のユーロドル建て転換社債発行に係る約定により、以後、米国で一般に公正妥当と認められている企業会計の基準による連結財務諸表(米国式連結財務諸表)を作成し、開示しております。また、当社は米国預託証券を1971年以来、NASDAQにアン・スポンサードとして上場しておりましたが、平成21年7月31日をもって、上場を廃止致しました。なお、当社は今後も米国式連結財務諸表の作成、開示を継続致します。

我が国における会計処理の原則及び手続並びに表示方法と当社が採用している米国で一般に公正妥当と認められている会計処理の原則及び手続並びに表示方法との主要な相違の内容は次のとおりであり、金額的に重要なものについては我が国の基準に基づいた場合の税金等調整前四半期純利益に対する影響額を開示しております。かかる影響額は実務上の困難性等から概算であります。

(イ)連結の範囲は基準書810、持分法の適用は基準書323に基づいております。

(ロ)基準書840に基づき、借手のリース取引に関しては、ある一定の条件に該当する場合はキャピタル・リースとし、最低リース料支払総額の現在価値又はリース資産の公正価額を有形固定資産及び借入金に計上しております。また、貸手のリース取引に関しては、ある一定の条件に該当する場合は資産の販売取引として処理し、リース資産は貸借対照表から除外しております。

(ハ)剰余金の配当は、前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間に対応する事業期間に係る剰余金の配当による方法(繰上方式)を採用しております。

(ニ)広告宣伝目的で支出した金額は、基準書720-35に基づき、「販売費及び一般管理費」として発生時に費用処理しております。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間への影響額は重要性がありません。

(ホ)基準書715に基づき、年金数理計算による退職給付費用を計上し、開示しております。また、同基準書に基づき、退職給付制度の清算及び縮小の会計処理を行っております。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の影響額はそれぞれ約9,155百万円(利益)及び約8,012百万円(利益)であります。また、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の影響額はそれぞれ約2,461百万円(利益)及び約2,343百万円(利益)であります。

(ヘ)デリバティブについては、基準書815を適用しております。

- (ト) 基準書820に基づき、資産及び負債の公正価値の測定について開示しております。また、基準書825に基づき、金融商品の公正価値について開示しております。
- (チ) 基準書810に基づき、純資産の部を株主資本と非支配持分とに識別して開示し、四半期純利益は非支配持分に帰属するものを含めて表示しております。また、四半期連結損益計算書上、富士フィルムホールディングス㈱の株主に帰属する四半期純利益を「当社株主帰属四半期純利益」として表示しております。
- (リ) 四半期連結損益計算書上、持分法による投資損益は、「持分法による投資損益」として区分表示しております。
- (ヌ) 基準書320に基づき、有価証券の公正価値の下落が一時的でない認められた場合には、当該銘柄の公正価値により帳簿価額を付け替えて取得原価を修正する減損処理を行い、同一連結会計年度において、公正価値が回復した場合でも取得原価を変更しておりません。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間への影響額はそれぞれ1,695百万円(利益)及び1,481百万円(損失)であります。当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間への影響額は2,098百万円(利益)であります。
- (ル) 基準書350に基づき、営業権及び存続期間に限りのないその他の無形固定資産は償却せず、毎年減損の有無を検討しており、必要に応じて減損処理を行っております。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の影響額は、それぞれ約12,857百万円(利益)及び約14,351百万円(利益)であります。また、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の影響額は、それぞれ約4,281百万円(利益)及び約4,509百万円(利益)であります。
- (ロ) 将来の休暇について従業員が給付を受け取れる権利に対し、基準書710に基づき、未払債務を計上しております。当該会計処理による前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間への影響額は重要性がありません。
- (ワ) 四半期連結貸借対照表上、取得日より3ヶ月以内に満期の到来する一部の負債証券は「現金及び現金同等物」に含めて表示しております。

上記の修正事項を反映した後の主要な会計方針は次のとおりであります。

(1) 連結の方針及び関連会社等に対する持分法の適用

当四半期連結財務諸表は、当社及び当社が直接的又は間接的に支配している子会社の財務諸表を含んでおり、連結会社間の重要な取引及び勘定残高はすべて消去しております。

当社が、直接又は間接にその議決権の20%から50%を保有し、重要な影響を及ぼし得る関連会社(以下、「関連会社等」と記述します。)に対する投資額は持分法により評価しております。四半期純利益には、未実現利益消去後のこれら関連会社等の四半期純損益のうち、当社持分が含まれております。

(2) 見積の使用

米国で一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づいて四半期連結財務諸表を作成するために、当社の経営陣は必要に応じて仮定と見積を行って財務諸表や注記に記載された金額を算出しております。

それらの仮定と見積は、受取債権、棚卸資産、有価証券及び投資有価証券、及び繰延税金資産の評価、減損を含む有形固定資産及び無形固定資産の評価、耐用年数及び償却方法、並びに年金数理計算による従業員年金債務の見積に関係する仮定等といった重要性のある項目を含んでおります。実際の結果がこれら見積と異なることもあり得ます。

(3) 外貨換算

当社の海外子会社は、原則として現地通貨を機能通貨として使用しており、これら外貨建財務諸表の円貨への換算は、資産及び負債は貸借対照表日の為替相場により、また収益及び費用は期中平均為替相場により行われており、換算により生じた換算差額は為替換算調整額として純資産の部の独立項目である「その他の包括利益(△損失)累積額」に含めて表示しております。

外貨建金銭債権債務は貸借対照表日の為替相場により換算しており、換算によって生じた換算差額は損益に計上しております。

(4) 現金同等物

当社は随時に現金化が可能な取得日より3ヶ月以内に満期の到来するすべての流動性の高い投資を現金同等物として処理しております。

売却可能有価証券に分類される取得日より3ヶ月以内に満期となる一部の負債証券は、連結貸借対照表の「現金及び現金同等物」に含めております。これらの前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における公正価値はそれぞれ48,707百万円及び239,201百万円であります。

(5) 有価証券及び投資有価証券

当社は有価証券及び投資有価証券を売却可能有価証券に分類し、公正価値で評価を行い、関連税効果調整後の未実現損益を純資産の部の「その他の包括利益(△損失)累積額」に含めて表示しております。当社は、有価証券の価値の下落が一時的でないとは判断される場合は、持分証券に係る減損損失を損益に計上し、負債証券に係る減損損失のうち負債証券の信用リスクから生じる価格の下落部分については損益に計上し、それ以外の要因に基づく部分については「その他の包括利益(△損失)累積額」に含めて表示しております。価値の下落が一時的でないかどうかの判断に関し、持分証券については、公正価値が帳簿価額を下回っている期間と程度、被投資会社の財政状態と近い将来の見通し及び将来における公正価値の回復まで投資を継続する当社の意図と能力を考慮し、負債証券については投資の将来における売却意図又は必要性及び帳簿価額の回収可能性を考慮しております。有価証券の原価は移動平均法によって評価されております。売却可能有価証券に係る配当金は四半期連結損益計算書の「受取利息及び配当金」に含まれております。

(6) 製品保証

当社は一部の製品について、顧客に対して製品保証を提供しており、その製品保証期間は一般的に顧客の購入日より1年間であります。製品保証及びアフターサービスに関する見積費用は、関連する収益が認識された時点で計上しております。製品保証債務の見積金額は、過去の実績に基づいて算出しております。

(7) 法人税等

法人税等は基準書740に基づき資産負債法により算出されております。

当社は資産及び負債の財務会計上の金額と税務上の金額の差異に基づいて繰延税金資産及び負債を認識しており、その算出にあたっては差異が解消される年度に適用される税率及び税法を適用しております。繰延税金資産のうち回収されない可能性が高い部分については、評価性引当金を計上しております。

当社は、同基準書に基づき、税務当局による調査において50%超の可能性をもって税務ベネフィットが認められる場合にその影響額を認識しております。

当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間において一部の子会社における評価性引当金の減少等により、実効税率は法定税率の38.0%に対して乖離しております。

(8) 1株当たり当社株主帰属四半期純利益

1株当たり当社株主帰属四半期純利益は前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の加重平均発行済株式数に基づいて計算しております。潜在株式調整後1株当たり当社株主帰属四半期純利益は、すべての転換社債型新株予約権付社債が普通株式に転換されたものとみなした希薄化効果及びストックオプションが行使された場合に発行される追加株式の希薄化効果を含んでおります。

(9) 後発事象

基準書855に基づき当第3四半期連結会計期間末後の後発事象は、四半期連結財務諸表が提出可能となった日である平成25年2月12日までの期間において評価しております。

(10) 組替再表示

前連結会計年度の連結財務諸表及び注記を当第3四半期連結会計期間の表示にあわせて組替再表示しております。

(11) 新会計基準

平成23年6月に、米国財務会計基準審議会は、会計基準アップデート2011-05「包括利益の表示」を発行しました。会計基準アップデート2011-05は、基準書220を改訂し、純損益の各内訳項目及びその他の包括利益の各内訳項目を1計算書方式または2計算書方式のいずれかで表示することを要求し、その他の包括利益を連結資本勘定計算書内で表示する選択肢を削除しております。平成23年12月に、米国財務会計基準審議会は、会計基準アップデート2011-12「会計基準アップデート2011-05におけるその他の包括利益累積額の各内訳項目の再分類の表示に対する改訂の適用日の延期」を発行しました。会計基準アップデート2011-12は、会計基準アップデート2011-05で要求されているその他の包括利益累積額から当期純利益へ再分類修正した項目を財務諸表へ表示する規定の適用時期を延期しております。会計基準アップデート2011-05及び会計基準アップデート2011-12による基準書220の改訂は、平成23年12月15日より後に始まる連結会計年度（期中会計期間を含む）から遡及的に適用され、当社においては、平成24年4月1日より始まる第1四半期連結会計期間から適用し、2計算書方式で表示しております。会計基準アップデート2011-05及び会計基準アップデート2011-12による基準書220の修正が当社の経営成績及び財政状態に与える影響はありません。

3 負債証券及び持分証券投資

売却可能有価証券に関して、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末の主な有価証券の種類別の取得原価、未実現利益、未実現損失及び見積公正価値は次のとおりであります。なお、売却可能有価証券に分類される取得日より3ヶ月以内に満期となる一部の負債証券は、連結貸借対照表の現金及び現金同等物に含まれており、これらの前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における未実現利益額及び未実現損失額に重要性はありません。

	前連結会計年度末				当第3四半期連結会計期間末			
	取得原価	未実現利益	未実現損失	見積公正価値	取得原価	未実現利益	未実現損失	見積公正価値
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)
有価証券								
国債	5,004	10	—	5,014	—	—	—	—
社債	6,203	193	11	6,385	7,203	303	—	7,506
合計	11,207	203	11	11,399	7,203	303	—	7,506

	前連結会計年度末				当第3四半期連結会計期間末			
	取得原価	未実現利益	未実現損失	見積公正価値	取得原価	未実現利益	未実現損失	見積公正価値
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)
投資有価証券								
国債及び外国政府債	1,772	137	—	1,909	236	27	—	263
社債	9,828	184	27	9,985	5,889	212	—	6,101
株式	49,857	22,956	1,877	70,936	44,534	24,822	2,127	67,229
投資信託	24,359	171	669	23,861	24,342	403	891	23,854
合計	85,816	23,448	2,573	106,691	75,001	25,464	3,018	97,447

前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却収入額、売却利益額及び売却損失額にそれぞれ重要性はありません。当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間における売却可能有価証券の売却収入額は、それぞれ2,183百万円及び4百万円であり、売却利益額及び売却損失額にそれぞれ重要性はありません。

当第3四半期連結会計期間末における満期別に分類された負債証券の取得原価及び見積公正価値は次のとおりであります。なお、一部の負債証券については、証券発行者がペナルティなしに繰上償還できる権利を持っているため、実際の満期は契約上の満期と異なることがあります。

	取得原価 (百万円)	見積公正価値 (百万円)
1年以内	7,203	7,506
1年超5年以内	5,912	6,124
5年超10年以内	213	240
合計	13,328	13,870

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における売却可能有価証券のうち、未実現損失の状態が継続しているものの見積公正価値及び未実現損失は次のとおりであります。

	前連結会計年度末					
	12ヶ月未満		12ヶ月以上		合計	
	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)
社債	5,975	25	2,487	13	8,462	38
株式	1,375	285	4,300	1,592	5,675	1,877
投資信託	—	—	8,333	669	8,333	669
合計	7,350	310	15,120	2,274	22,470	2,584

	当第3四半期連結会計期間末					
	12ヶ月未満		12ヶ月以上		合計	
	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)	見積公正価値 (百万円)	未実現損失 (百万円)
株式	4,616	1,054	2,536	1,073	7,152	2,127
投資信託	6,155	34	8,143	857	14,298	891
合計	10,771	1,088	10,679	1,930	21,450	3,018

平成24年12月31日現在、公正価値が原価に対して下落している売却可能有価証券のうち、主なものは日本国内の市場性のある株式であり、その銘柄数は約70であります。これらの市場性のある株式の公正価値が下落した主な理由は、為替の円高影響や、欧州債務問題の深刻化等による株式市場の一時的な下落によるものと考えております。未実現損失が発生している主要な銘柄について、投資先の財政状態や将来見込みに基づき、下落率及び下落期間を勘案した結果、当第3四半期連結累計期間は、株式の公正価値の下落が一時的ではないと判断するには尚早であること、また当社及び連結子会社は当該株式を近い将来売却する予定はなく、公正価値が将来回復するのに十分な合理的期間にわたり株式の保有を継続する意図と能力を有していることから、当社はこれらの未実現損失を含む投資につき、一時的でない価値の下落にあたらぬものと判断しました。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において原価法により評価された市場性のない有価証券の取得原価は、それぞれ13,228百万円及び13,265百万円であります。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末において、上記投資額のうち減損の評価を行っていない有価証券の取得原価は、それぞれ6,060百万円及び6,091百万円であります。減損の評価を行わなかったのは、投資の公正価値を見積ることが実務上困難なこと及び投資の公正価値に著しく不利な影響を及ぼす事象や状況の変化が見られなかったためであります。

前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間においてその他の包括利益(損失)から実現した損益へ振り替えられた金額は、税効果調整前でそれぞれ17,744百万円(損失)及び2,764百万円(損失)であります。当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間においてその他の包括利益(損失)から実現した損益へ振り替えられた金額は、税効果調整前でそれぞれ5,028百万円(損失)及び4,268百万円(損失)であります。

4 棚卸資産

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における棚卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
製品・商品	218,527	241,369
半製品・仕掛品	69,957	75,522
原材料・貯蔵品	89,468	96,446
合計	377,952	413,337

5 関連会社等に対する投資

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における持分法適用の関連会社等に対する投資はそれぞれ31,838百万円及び34,559百万円であります。これらの関連会社は主にイメージング、インフォメーション及びドキュメントソリューション事業の業務を行っております。当社の持分法適用の関連会社等の経営成績は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
売上高	188,331	190,631
四半期純損失	△667	△6,726

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
売上高	66,573	72,459
四半期純利益(△損失)	△1,181	2,165

6 退職給付制度

当第3四半期連結累計期間において、当社の一部の子会社で、確定給付型退職給付制度の清算及び縮小が発生しております。この退職給付制度の清算及び縮小に伴い、498百万円を退職給付費用に含めて処理しております。

退職給付費用の内訳

確定給付型退職給付制度の前第3四半期連結累計期間、当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における退職給付費用の内訳は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
退職給付費用の内訳		
勤務費用	14,699	15,550
利息費用	10,726	10,185
期待運用収益	△13,328	△12,728
数理計算上の差異の償却額	4,932	6,420
過去勤務債務の償却額	△1,998	△1,777
制度清算及び縮小による損失	905	498
退職給付費用	15,936	18,148

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
退職給付費用の内訳		
勤務費用	4,812	5,143
利息費用	3,404	3,370
期待運用収益	△4,191	△4,165
数理計算上の差異の償却額	1,600	2,123
過去勤務債務の償却額	△661	△595
制度清算及び縮小による損失	905	498
退職給付費用	5,869	6,374

7 純資産

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における純資産の変動は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間			当第3四半期連結累計期間		
	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産計 (百万円)	株主資本 (百万円)	非支配持分 (百万円)	純資産計 (百万円)
期首残高	1,722,526	128,345	1,850,871	1,721,769	134,715	1,856,484
四半期純利益	23,696	10,045	33,741	28,848	11,725	40,573
その他の包括利益(△損失)						
有価証券未実現損益変動額	△1,598	△48	△1,646	1,237	△25	1,212
為替換算調整額	△42,817	△3,035	△45,852	42,329	4,050	46,379
年金負債調整額	1,778	324	2,102	2,805	474	3,279
デリバティブ未実現損益 変動額	△48	△17	△65	309	30	339
四半期包括利益(△損失)	△18,989	7,269	△11,720	75,528	16,254	91,782
当社株主への配当金	△8,430	—	△8,430	△9,634	—	△9,634
非支配持分への配当金	—	△4,620	△4,620	—	△4,436	△4,436
資本取引その他	1,839	513	2,352	528	△5	523
期末残高	1,696,946	131,507	1,828,453	1,788,191	146,528	1,934,719

8 契約債務及び偶発債務

債務保証

当社は、他者の特定の負債及びその他債務について保証しております。当第3四半期連結会計期間末において、保証に基づいて当社が将来支払う可能性のある割引前の金額は最大で13,835百万円であり、そのうち、金融機関に対する従業員の住宅ローンの保証が11,074百万円であります。従業員が支払不能な状態に陥った場合は、当社及び一部の子会社は従業員に代わり不履行の住宅ローンを支払う必要があります。一部の保証については従業員の財産により担保されており、その金額は11,042百万円であります。住宅ローン保証の期間は、1年から23年であります。これまで、保証債務に関して多額の支払が生じたことはなく、当第3四半期連結会計期間末において、保証に対して債務計上している金額は重要性がありません。

購入契約、その他の契約債務及び偶発債務

当第3四半期連結会計期間末における契約債務残高は主として有形固定資産の建設及び購入に関するものであり、その金額は12,323百万円であります。当第3四半期連結会計期間末における当社が銀行に対して負っている割引手形に関する偶発債務は、4,283百万円であります。

事業の性質上、当社は種々の係争案件や当局の調査に係わっております。当社は環境問題、訴訟、当局による調査等、将来に生じる可能性が高く、かつ、損失金額が合理的に見積可能な偶発事象がある場合は、必要な引当を計上しております。これらの損失金額は現時点では確定しておりませんが、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重大な影響を及ぼすものではないと考えております。

製品保証

当社は一部の製品について、顧客に対して製品保証を提供しており、これら製品保証期間は一般的に製品購入日より1年間であります。当社の製品保証引当金の増減の明細は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
引当金期首残高	6,525	7,160
期中引当金繰入額	9,735	7,127
期中目的取崩額	△9,846	△7,222
失効を含むその他増減	746	122
引当金期末残高	7,160	7,187

9 1株当たり当社株主帰属四半期純利益

1株当たり当社株主帰属四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当社株主帰属四半期純利益の計算は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
当社株主帰属四半期純利益	23,696	28,848
希薄化効果のある証券		
2013年満期A号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	127	130
2013年満期B号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	345	360
潜在株式調整後当社株主帰属 四半期純利益	24,168	29,338

	前第3四半期 連結累計期間 (株)	当第3四半期 連結累計期間 (株)
平均発行済株式数	481,696,171	481,708,443
希薄化効果のある証券		
2013年満期A号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	13,286,564	13,296,457
2013年満期B号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	13,286,564	13,296,457
ストックオプション	578,670	783,524
潜在株式調整後発行済株式数	508,847,969	509,084,881

	前第3四半期 連結累計期間 (円)	当第3四半期 連結累計期間 (円)
1株当たり当社株主帰属四半期純利益	49.19	59.89
潜在株式調整後1株当たり当社株主 帰属四半期純利益	47.50	57.63

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
当社株主帰属四半期純利益	8,798	18,374
希薄化効果のある証券		
2013年満期A号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	42	42
2013年満期B号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	115	120
潜在株式調整後当社株主帰属 四半期純利益	8,955	18,536

	前第3四半期 連結会計期間 (株)	当第3四半期 連結会計期間 (株)
平均発行済株式数	481,706,922	481,710,160
希薄化効果のある証券		
2013年満期A号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	13,286,564	13,296,457
2013年満期B号ユーロ円建 転換社債型新株予約権付社債	13,286,564	13,296,457
ストックオプション	655,362	900,506
潜在株式調整後発行済株式数	508,935,412	509,203,580

	前第3四半期 連結会計期間 (円)	当第3四半期 連結会計期間 (円)
1株当たり当社株主帰属四半期純利益	18.26	38.14
潜在株式調整後1株当たり当社株主 帰属四半期純利益	17.60	36.40

当社は、希薄化効果を有しないため潜在株式調整後1株当たり当社株主帰属四半期純利益の計算より除いているものの、将来において1株当たり当社株主帰属四半期純利益を希薄化させる可能性のある発行済みのストックオプションを前第3四半期連結会計期間末及び当第3四半期連結会計期間末においてそれぞれ731,000株及び754,100株有しております。

10 デリバティブ

当社は国際的に事業を展開しており、外国為替相場、市場金利及び一部の商品価格の変動から生じる市場リスクを負っております。当社はこれらのリスクを減少させる目的でのみデリバティブ取引を利用しております。

当社はデリバティブ取引の承認、報告、監視等の手続についてリスク管理規程を作成し、それに従いデリバティブ取引を利用しております。当該リスク管理規程はトレーディング目的でデリバティブ取引を保有又は発行することを禁止しております。以下は当社のリスク管理規程の概要及び連結財務諸表に与える影響であります。

キャッシュ・フローヘッジ

一部の子会社は将来予定されている外貨建ての取引先及び関係会社との輸入仕入や輸出売上及び関連する外貨建債権債務に関する外貨の変動リスクを軽減するために外国為替予約を結んでおります（最長期間は平成25年6月まで）。円の価値が外貨(主として米国ドル)に対して下落した場合に、将来の外貨の価値の上昇に伴う支出もしくは収入の増加は、ヘッジ指定された外国為替予約の価値の変動に伴う損益と相殺されます。反対に円の価値が外貨に対して上昇した場合には、将来の外貨の価値の下落に伴う支出もしくは収入の減少は、ヘッジ指定された外国為替予約の価値の変動に伴う損益と相殺されます。

当社は借入債務に係る金利変動リスクを軽減するために金利スワップを結んでおります（最長期間は平成34年7月まで）。

これらのキャッシュ・フローヘッジとして扱われているデリバティブの公正価値の変動は税効果調整後の金額で四半期連結貸借対照表の「その他の包括利益(△損失)累積額」に表示しております。この金額はヘッジ対象に関する損益を計上した期に損益に振替えられることとなります。ヘッジとして有効でない又はヘッジの有効性評価から除外されたデリバティブ又はその一部に関する損益が当社の経営成績及び財政状態に与える重要な影響はありません。

当第3四半期連結会計期間末において、今後12ヶ月の間にデリバティブ取引による未実現利益337百万円(税効果調整前)をその他の包括利益(損失)累積額から当期損益へ振替える見込みであります。

ヘッジ指定されていないデリバティブ

一部の子会社は外貨建ての予定取引や外貨建債権債務に関する外貨の変動リスクを軽減するために外国為替予約及び通貨スワップ契約を結んでおります。また、変動利付債務に関する金利の変動リスクを軽減するために金利スワップ契約を結んでおり、外貨建貸付債権に関する金利の変動リスク及び外貨の変動リスクを軽減するために通貨金利スワップ契約を結んでおります。これらのデリバティブは経済的な観点からはヘッジとして有効であります。一部の子会社はこれらの契約についてヘッジ会計を適用するために必要とされているヘッジ指定をしておりません。その結果、これらデリバティブの公正価値の変動額については、ただちに当期損益として認識されます。

デリバティブ活動の規模

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における外国為替予約、通貨スワップ契約、通貨金利スワップ契約及び金利スワップ契約の残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
外国為替予約契約(売却)	63,878	73,134
外国為替予約契約(購入)	44,261	45,927
通貨スワップ契約	27,561	38,562
通貨金利スワップ契約	18,861	17,613
金利スワップ契約	15,459	68,132

連結財務諸表に与える影響

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末におけるデリバティブに関する連結貸借対照表上の表示科目及び公正価値は次のとおりであります。

デリバティブ資産			
貸借対照表科目	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)	
ヘッジ商品に指定されている			
デリバティブ商品			
外国為替予約	前払費用及びその他の流動資産	906	1,594
金利スワップ	長期リース債権及びその他の長期債権	—	306
合計		906	1,900
ヘッジ商品に指定されていない			
デリバティブ商品			
外国為替予約	前払費用及びその他の流動資産	92	170
通貨スワップ	前払費用及びその他の流動資産	227	498
金利スワップ	前払費用及びその他の流動資産	5	—
合計		324	668
デリバティブ資産合計		1,230	2,568
デリバティブ負債			
貸借対照表科目	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)	
ヘッジ商品に指定されている			
デリバティブ商品			
外国為替予約	その他の流動負債	1,930	3,296
外国為替予約	預り保証金及びその他の固定負債	—	367
合計		1,930	3,663
ヘッジ商品に指定されていない			
デリバティブ商品			
外国為替予約	その他の流動負債	305	812
外国為替予約	預り保証金及びその他の固定負債	80	105
通貨スワップ	その他の流動負債	786	68
通貨スワップ	預り保証金及びその他の固定負債	78	3,094
通貨金利スワップ	その他の流動負債	258	924
通貨金利スワップ	預り保証金及びその他の固定負債	621	879
金利スワップ	その他の流動負債	30	7
金利スワップ	預り保証金及びその他の固定負債	284	330
合計		2,442	6,219
デリバティブ負債合計		4,372	9,882

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間におけるデリバティブに関する四半期連結損益計算書上の表示科目及び計上金額は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間			
キャッシュ・フローヘッジ	その他の包括利益 (損失) 累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失) 累積額から 損益への振替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目 為替差損益・純額	(百万円)
外国為替予約	△439		△330
合計	△439		△330

前第3四半期連結累計期間	
ヘッジ指定されて いないデリバティブ	損益計算書科目 (百万円)
外国為替予約	為替差損益・純額 481
通貨スワップ	為替差損益・純額 1,086
通貨金利スワップ	為替差損益・純額 964
金利スワップ	その他損益・純額 △90
その他	その他損益・純額 △207
合計	2,234

当第3四半期連結累計期間			
キャッシュ・フローヘッジ	その他の包括利益 (損失) 累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失) 累積額から 損益への振替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目 為替差損益・純額	(百万円)
外国為替予約	△1,461		△1,788
金利スワップ	306	—	—
合計	△1,155		△1,788

当第3四半期連結累計期間	
ヘッジ指定されて いないデリバティブ	損益計算書科目 (百万円)
外国為替予約	為替差損益・純額 △570
通貨スワップ	為替差損益・純額 △2,156
通貨金利スワップ	為替差損益・純額 △754
金利スワップ	その他損益・純額 △18
合計	△3,498

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間におけるデリバティブに関する四半期連結損益計算書上の表示科目及び計上金額は次のとおりであります。

前第3四半期連結会計期間			
キャッシュ・フローヘッジ	その他の包括利益 (損失) 累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失) 累積額から 損益への振替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目 為替差損益・純額	(百万円)
外国為替予約	△803		△845
合計	△803		△845
前第3四半期連結会計期間			
ヘッジ指定されて いないデリバティブ	損益計算書科目	(百万円)	
外国為替予約	為替差損益・純額	△467	
通貨スワップ	為替差損益・純額	△685	
通貨金利スワップ	為替差損益・純額	△437	
金利スワップ	その他損益・純額	△48	
その他	その他損益・純額	△22	
合計		△1,659	
当第3四半期連結会計期間			
キャッシュ・フローヘッジ	その他の包括利益 (損失) 累積額への計上額 (ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失) 累積額から 損益への振替額(ヘッジ有効部分)	
	(百万円)	損益計算書科目 為替差損益・純額	(百万円)
外国為替予約	△1,315		△1,682
金利スワップ	76	—	—
合計	△1,239		△1,682
当第3四半期連結会計期間			
ヘッジ指定されて いないデリバティブ	損益計算書科目	(百万円)	
外国為替予約	為替差損益・純額	△1,148	
通貨スワップ	為替差損益・純額	△2,230	
通貨金利スワップ	為替差損益・純額	△1,605	
金利スワップ	その他損益・純額	19	
合計		△4,964	

信用リスクの集中

当社の保有している金融商品のうち潜在的に著しい信用リスクにさらされているものは、主に現金及び現金同等物、有価証券及び投資有価証券、営業債権及びリース債権、及びデリバティブであります。

当社は現金及び現金同等物、短期投資をさまざまな金融機関に預託しております。当社の方針として、一つの金融機関にリスクを集中させないこととしており、また、定期的にこれらの金融機関の信用度を評価しております。

営業債権については、大口顧客に対する営業債権を含んでいるために、信用リスクにさらされていますが、預り保証金の保持及び継続的な信用評価の見直しによって、リスクは限定されております。貸倒引当金は、潜在的な損失を補うために必要と思われる金額の水準を維持しております。

デリバティブについては、契約の相手方の契約不履行から生じる信用リスクにさらされていますが、これらは信用度の高い金融機関を相手方とすることで、リスクを軽減しております。

金融商品の公正価値

金融商品の公正価値は、入手可能な市場価格又は他の適切な評価方法によって算定しております。金融商品の公正価値の見積りに際して、当社は最適な判断をしておりますが、見積りの方法及び仮定は元来主観的なものであります。従って見積額は、現在の市場で実現するかあるいは支払われる金額を必ずしも表わしているものではありません。金融商品の公正価値の見積りにあたっては、次の方法及び仮定が採用されております。

- 現金及び現金同等物、受取債権、社債(1年以内償還分)及び短期借入金、支払債務：
満期までの期間が短いため、公正価値は概ね帳簿価額と同額であります。
- 有価証券、投資有価証券：
活発な市場のある国債、株式及び公募投資信託等の公正価値は、公表されている相場価格に基づいております。活発な市場のない負債証券及び私募投資信託等については、直接的又は間接的に観察可能なインプットを用いて評価しております。
- 預り保証金：
変動金利の金融商品であるため公正価値は概ね帳簿価額と同額であります。
- 社債及び長期借入金：
社債及び長期借入金の公正価値は、公表されている相場価格、または貸借対照表日における類似の資金調達契約に適用される利率で割り引いた将来のキャッシュ・フローの現在価値に基づいて算定しております。社債及び長期借入金の公正価値及び帳簿価額(1年以内償還・返済予定分を含む)は、前連結会計年度末において、それぞれ37,048百万円及び36,964百万円であり、当第3四半期連結会計期間末において、それぞれ253,466百万円及び253,764百万円であります。
前連結会計年度末における社債及び長期借入金の公正価値の階層は次のとおりであります。

	前連結会計年度末			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)
社債及び長期借入金	13,883	23,165	—	37,048

当第3四半期連結会計期間末における社債及び長期借入金の公正価値はレベル2に分類しております。なお、公正価値の測定手法に用いられるインプットの優先順位を設定する公正価値の階層については、注記11「公正価値の測定」に記述しております。

なお、平成18年4月5日に発行された無担保ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の公正価値については、公表されている指標価格がなく、また公正価値の見積が実務上極めて困難であるため、上記の前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末の公正価値及び帳簿価額には含まれておりません。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における無担保ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の内訳は次のとおりであります。

満期日	利率	帳簿価額	
		前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
平成25年3月31日	LIBOR-0.3000%	51,586	51,784
平成25年3月31日	0.75000%	52,400	52,700
		103,986	104,484

・デリバティブ：

外国為替予約、通貨スワップ契約、通貨金利スワップ契約及び金利スワップ契約等の公正価値は、取引金融機関又は第三者から入手した市場価値に基づいており、観察可能なインプットを用いて評価しております。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末におけるデリバティブ資産の公正価値及び帳簿価額はそれぞれ1,230百万円及び2,568百万円であり、またデリバティブ負債の公正価値及び帳簿価額はそれぞれ4,372百万円及び9,882百万円であります。

1.1 公正価値の測定

基準書820は、公正価値の定義を「市場参加者の間での通常の取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格、又は負債を移転するために支払うであろう価格」とした上で、測定手法に用いられるインプットの優先順位を設定する公正価値の階層を、その測定のために使われるインプットの観察可能性に応じて次の3つのレベルに区分することを規定しております。

- レベル1 : 活発な市場における同一資産又は同一負債の（調整不要な）相場価格
- レベル2 : レベル1に分類された相場価格以外の観察可能なインプット。例えば、類似資産又は負債の相場価格、取引量又は取引頻度の少ない市場（活発でない市場）における相場価格、又は資産・負債のほぼ全期間について、全ての重要なインプットが観察可能である、あるいは主に観察可能な市場データから得られる又は裏付けられたモデルに基づく評価。
- レベル3 : 資産又は負債の公正価値の測定にあたり、評価手法に対する重要な観察不能なインプット

当社が経常的に公正価値で評価している資産及び負債は、現金同等物、有価証券、投資有価証券、デリバティブ資産及び負債であります。前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における公正価値の階層は次のとおりであります。

	前連結会計年度末			
	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)
資産				
現金同等物	—	48,707	—	48,707
有価証券				
国債	5,014	—	—	5,014
社債	—	6,385	—	6,385
投資有価証券				
国債及び外国政府債	1,685	224	—	1,909
社債	—	9,985	—	9,985
株式	70,936	—	—	70,936
投資信託	15,495	8,366	—	23,861
短期デリバティブ資産				
外国為替予約	—	998	—	998
通貨スワップ	—	227	—	227
金利スワップ	—	5	—	5
負債				
短期デリバティブ負債				
外国為替予約	—	2,235	—	2,235
通貨スワップ	—	786	—	786
通貨金利スワップ	—	258	—	258
金利スワップ	—	30	—	30
長期デリバティブ負債				
外国為替予約	—	80	—	80
通貨スワップ	—	78	—	78
通貨金利スワップ	—	621	—	621
金利スワップ	—	284	—	284

当第3四半期連結会計期間末

	レベル1 (百万円)	レベル2 (百万円)	レベル3 (百万円)	合計 (百万円)
資産				
現金同等物	—	239,201	—	239,201
有価証券				
社債	—	7,506	—	7,506
投資有価証券				
国債及び外国政府債	23	240	—	263
社債	—	6,101	—	6,101
株式	67,229	—	—	67,229
投資信託	15,693	8,161	—	23,854
短期デリバティブ資産				
外国為替予約	—	1,764	—	1,764
通貨スワップ	—	498	—	498
長期デリバティブ資産				
金利スワップ	—	306	—	306
負債				
短期デリバティブ負債				
外国為替予約	—	4,108	—	4,108
通貨スワップ	—	68	—	68
通貨金利スワップ	—	924	—	924
金利スワップ	—	7	—	7
長期デリバティブ負債				
外国為替予約	—	472	—	472
通貨スワップ	—	3,094	—	3,094
通貨金利スワップ	—	879	—	879
金利スワップ	—	330	—	330

レベル1に含まれる資産は、主に国債、上場株式及び公募投資信託であり、活発な市場における同一資産の調整不要な相場価格により評価しております。レベル2に含まれる資産及び負債は、主に現金同等物、社債、私募投資信託及びデリバティブであり、現金同等物、社債及び私募投資信託については、マーケット・アプローチに基づく活発でない市場における直接的又は間接的に観察可能なインプットを用いて評価しております。デリバティブ資産及び負債は、マーケット・アプローチに基づく取引金融機関又は第三者から入手した観察可能な市場データによって裏付けられたインプットを用いて評価しているため、レベル2に分類しております。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間においてレベル3に分類された資産及び負債はありません。

前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間において当社が非経常的に公正価値で評価している資産及び負債に重要性はありません。

1 2 金融債権の状況

金融債権及びそれに関する貸倒引当金

金融債権は、債務者の財政状態や支払の延滞状況に応じて一括評価債権と個別評価債権とに分け、前者については過去の貸倒実績に基づいた引当率を、後者については個別の状況に応じた引当率をそれぞれ用いて貸倒引当金を決定しております。債務者の財政状態や支払の延滞状況に関する情報は、四半期ごとに収集しており、これらに基づいて著しい信用リスクにさらされていると判断された金融債権については、個別の状況に応じた貸倒引当金を設定しております。裁判所による決定等によって、回収不能であることが明らかになった金融債権は、その時点で帳簿価額を直接減額しております。

1年以内に決済される営業債権を除く、金融債権に関する貸倒引当金の増減の明細及び前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における貸倒引当金の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
貸倒引当金期首残高	△3,149	△3,268
期中取崩額	995	767
期中引当金繰入(△)・戻入額	△1,073	△806
その他増減	△41	△200
貸倒引当金期末残高	△3,268	△3,507
内：個別評価	△1,905	△1,847
内：一括評価	△1,363	△1,660

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における、1年以内に決済される営業債権を除く、金融債権の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間末 (百万円)
金融債権残高	148,415	167,281
内：個別評価	1,906	1,847
内：一括評価	146,509	165,434

当第3四半期連結累計期間における金融債権の売買の金額に重要性はありません。

期日経過金融債権の年齢分析

当第3四半期連結会計期間末における、1年以内に決済される営業債権を除く、支払期日を経過している金融債権の内訳は次のとおりであります。

	当第3四半期連結会計期間末		
	31日超90日以内 (百万円)	90日超 (百万円)	合計 (百万円)
期日経過金融債権	1,710	3,284	4,994

1.3 事業買収

当社は、前連結会計年度において、携帯型超音波診断装置の米国大手企業SonoSite, Inc.の買収を行い、当第3四半期連結累計期間において取得価額の配分が完了しております。

取得価額の配分が完了したことに伴い、認識した資産及び引き継いだ負債は以下のとおりです。

	(百万円)
流動資産	20,353
無形固定資産	28,944
営業権	45,428
投資及びその他	1,819
流動負債	19,015
固定負債	11,842
取得した純資産	65,687

これを受けて、当第3四半期連結累計期間において、主に、営業権が19,524百万円減少し、無形固定資産及び繰延税金負債がそれぞれ28,928百万円、11,103百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間に認識した技術関連（進行中の研究開発を含む）の無形固定資産及び販売・顧客関連の無形固定資産はそれぞれ23,430万円及び5,498百万円であり、償却年数は、それぞれ約11年及び約24年であります。営業権は、インフォメーション ソリューションに配分されており、主として、将来の成長や当社既存事業とのシナジー効果から構成されております。なお、営業権については、税務上損金算入することはできません。

また、当社は、ドキュメント ソリューションでの事業拡大を目的に、平成24年10月10日に豪州の Salmat Limitedの子会社でビジネスプロセスアウトソーシング事業を展開するSalmat Document Management Solutions Pty. Limitedとその傘下11社、及びSalmat Asia Limitedの発行済全株式を356百万豪ドルの現金を対価として取得し、連結子会社化しました。

これを受けて、当第3四半期連結累計期間において、暫定的な評価結果をもとに、営業権を15,454百万円、無形固定資産を14,165百万円計上しております。なお、当第3四半期連結会計期間末において取得価額の配分が完了していないため、企業結合の会計処理に関する詳細な情報は開示しておりません。

当該買収によって取得した事業の経営成績は、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の四半期連結損益計算書に含まれております。当該事業の経営成績は、当社の経営成績に重要な影響を与えないため、経営成績に関するプロフォーマ情報は開示しておりません。

前第3四半期連結累計期間において行った事業買収は、重要性がありません。

1.4 セグメント情報

(1) オペレーティングセグメント

当社のオペレーティングセグメントは以下の3つの区分であり、経営者による業績評価方法及び経営資源の配分の決定方法を反映し、製造技術、製造工程、販売方法及び市場の類似性にに基づき決定しております。イメージングソリューションは、主に一般消費者向けにカラーフィルム、デジタルカメラ、フォトフィニッシング機器、写真プリント用カラーペーパー・薬品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。インフォメーションソリューションは、主に業務用分野向けにメディカルシステム機材、ライフサイエンス製品、医薬品、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、光学デバイス、電子材料等の開発、製造、販売、サービスを行っております。ドキュメントソリューションは、主に業務用分野向けにオフィス用複写機・複合機、プリンター、プロダクションサービス関連商品、オフィスサービス、用紙、消耗品等の開発、製造、販売、サービスを行っております。

a. 売上高

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
イメージングソリューション		
外部顧客に対するもの	248,762	222,505
セグメント間取引	529	553
計	249,291	223,058
インフォメーションソリューション		
外部顧客に対するもの	646,512	653,516
セグメント間取引	1,247	1,380
計	647,759	654,896
ドキュメントソリューション		
外部顧客に対するもの	723,239	735,151
セグメント間取引	6,665	7,897
計	729,904	743,048
セグメント間取引消去	△8,441	△9,830
連結合計	1,618,513	1,611,172

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
イメージングソリューション		
外部顧客に対するもの	86,367	79,907
セグメント間取引	195	195
計	86,562	80,102
インフォメーションソリューション		
外部顧客に対するもの	211,553	224,641
セグメント間取引	522	397
計	212,075	225,038
ドキュメントソリューション		
外部顧客に対するもの	237,161	245,014
セグメント間取引	1,844	2,136
計	239,005	247,150
セグメント間取引消去	△2,561	△2,728
連結合計	535,081	549,562

b. セグメント損益

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)
営業利益 (△損失)		
イメージング ソリューション	△3,825	△3,003
インフォメーション ソリューション	49,826	41,535
ドキュメント ソリューション	61,330	52,396
計	107,331	90,928
全社費用及びセグメント間取引消去	△21,765	△25,550
連結合計	85,566	65,378
その他損益・純額	△27,881	△2,549
税金等調整前四半期純利益	57,685	62,829

	前第3四半期 連結会計期間 (百万円)	当第3四半期 連結会計期間 (百万円)
営業利益 (△損失)		
イメージング ソリューション	△132	△1,683
インフォメーション ソリューション	16,093	17,270
ドキュメント ソリューション	17,676	16,212
計	33,637	31,799
全社費用及びセグメント間取引消去	△7,114	△8,706
連結合計	26,523	23,093
その他損益・純額	△1,581	6,754
税金等調整前四半期純利益	24,942	29,847

オペレーティングセグメント間取引は市場価格に基づいております。「b. セグメント損益」における全社費用は、当社のコーポレート部門に係る費用であります。

(2) 主要顧客及びその他情報

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、単一顧客に対する売上高が連結売上高の10%を超えるような重要な顧客はありません。

ドキュメント ソリューションでは非支配持分に対してオフィス用複写機とその他機器を販売し、また非支配持分より棚卸資産を購入しております。前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の販売金額はそれぞれ131,252百万円及び124,686百万円、購入金額はそれぞれ8,586百万円及び8,762百万円であります。前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の販売金額はそれぞれ43,907百万円及び41,400百万円、購入金額はそれぞれ2,894百万円及び2,515百万円であります。

非支配持分とのライセンス契約その他の取引に関連して、ドキュメント ソリューションではロイヤルティ及び研究開発費等の費用を前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間でそれぞれ9,047百万円及び9,283百万円計上し、また、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間でそれぞれ2,877百万円及び2,984百万円計上しました。主として研究開発受託関連費用を前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間でそれぞれ1,228百万円及び1,180百万円回収し、また、前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間でそれぞれ428百万円及び658百万円回収しました。

前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末における当該非支配持分に対する受取債権額はそれぞれ39,699百万円及び41,028百万円、支払債務額はそれぞれ4,374百万円及び5,272百万円であります。

2 【その他】

中間配当

平成24年10月31日開催の取締役会において、富士フイルムホールディングス株式会社定款第36条の規定に基づき、第117期(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)の中間配当を次のとおり行うことを決議しました。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1) 受領株主 | 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主 |
| (2) 支払請求権の効力発生日
並びに支払開始日 | 平成24年12月4日 |
| (3) 1株当たりの配当金 | 20円 |
| (4) 中間配当金の総額 | 9,634百万円 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

富士フイルムホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 荒 尾 泰 則 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 室 橋 陽 二 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池 内 基 明 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三 辻 雅 樹 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている富士フイルムホールディングス株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び四半期連結財務諸表に対する注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表に対する注記2参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表に対する注記2参照）に準拠して、富士フイルムホールディングス株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※ 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。